Ⅵ. 国際連携

本センターでは、海外の大学教育の研究開発組織や研究者・実践者との交流・共同研究を進め、そのプロセスや成果をシンポジウム、研究会、書籍などで公開しています。

1. 国際会議への参加

(1)ICT活用教育・MOOCに関する国際会議

MOOCの設計・運営・評価についてはMOOCの国際コンソーシアムであるedXと緊密な連携をとっており、積極的に関連学会や研究会に参加しています。

2016年度は以下の国際会議において、世界の先端情報の収集につとめるとともに、講演や報告を通して情報発信も行いました。

会議名称	**2016 Open edX Conference** (https://con.openedx.org/)
期間・場所	6月14～17日、スタンフォード大学
参加者	Isanka Wijerathne

このカンファレンスは、Open edXの開発者、技術者、教育科学者、オープンソースの有識者、世界的なOpen edXに関するソリューションの提供者が参加する国際的な会合で、約330名の参加がありました。

カンファレンスへの参加は、Open edXのプラットフォームと新たな教育技術やトレンドを理解するための非常によい機会となりました。カンファレンスは、2件の基調講演、パネルディスカッション、チュートリアル、テーマ別のセッション等で構成され、素晴らしい発表が多数ありました。特に、"Demystifying the Open edX architecture"のセッションでは、Open edXプラットフォームを深く理解するとてもよい機会であり、プラットフォームの開発に深く関与している担当者からOpen edXのアーキテクチャについて直接学べたことはとても幸運でした。また、セッション間の休憩時間やテクニカルチュートリアルセッションでは、世界中のOpen edXのユーザーである大学関係者、投資家、開発者、研究者等と情報交換を行いました。

(Isanka Wijerathne、訳：酒井 博之)

会議名称	**2016 edX Global Forum** (http://globalforum.edx.org)
期間・場所	11月14～16日、ソルボンヌ大学
参加者	飯吉　透・酒井　博之 Isanka Wijerathne
パネルディスカッション	MOOCs Go East: Opportunities and Challenges
パネリスト	飯吉　透(京都大学) Eric Yue-Hong Tsui(香港理工大学) Ting-Chuen Pong(香港科技大学) Li Xaoming(北京大学) 山名　早人(早稲田大学)

11月14日から3日間、ソルボンヌ大学(パリ)において第6回目となるedX Global Forumが開催され、edX及びその加盟機関より約400名(24カ国、78機関)の関係者が集い、MOOCや教育全般に関する現状や課題、edXの今後の方向性等に関して議論がなされました。

今回のGlobal Forumでは、特に、正規の修士課程プログラムとの単位互換や、企業との連携により身に付けた知識・スキルと職業とのマッチングを実現する新たなプログラム"MicroMasters"に注目が集まり、すでにプログラムの提供を開始している大学による現状報告がなされました。

また、初の試みとして、“edX Prize for Exceptional Contributions in Online Teaching and Learning”が企画されました。edXより配信された中から特に優れた講義を提供した教員11名がファイナリストとして会場に招待され、各自のMOOCに関する経験が共有されました。最終日には、太陽エネルギーに関する講義を提供したArno Smets教授（デルフト工科大学）の受賞が発表されました。

次回はブリティッシュコロンビア大学がホスト校となり2017年12月に開催されます。

（酒井 博之）

(2)IR（Institutional Research）に関する国際会議

会議名称	AIR FORUM 2016
期間・場所	5月30日～6月3日、ハイアット リージェンシー ニューオーリンズ
参加者	溝上　慎一・山田　剛史

近年、データに基づく組織的な調査・研究及び意思決定に資する情報提供活動を推進するIRに注目が集まっています。AIR（Association for Institutional Research）は1966年にアメリカで設立された協会で、毎年カンファレンスが開かれています。会員はアメリカ国内で約4,000名、国外で160名（2016年5月時点）と世界最大の規模です。450を超えるセッションが設けられ、世界各国から2,009名の参加者がありました。今年度より本センターに教育アセスメント室が設置されたこともあり、室のメンバーで参加してきました。

2015年に協会が取りまとめた“Statement Of Aspirational Practice For Institutional Research”を話題にした基調講演などでは、IRにおける意思決定者の定義の拡張、学生重視のパラダイム転換、IRからIE（Institutional Effectiveness）へ、提案からエンゲージメントへといった、半世紀続くIRへの批判的検討を踏まえて、新たなステージへ突入しようという意気込みが語られました。この方向性が確認されたことは、日本におけるIRの推進においても重要な示唆を与えるものと思われます。

来年度のAIR FORUM 2017は、5月29日から6月2日にかけて、ワシントンDCにて行われる予定です。

（山田 剛史）

2. 台湾大学訪問団との大学評価・IRに関する意見交換

会議名称	台湾大学訪問団との意見交換
期間・場所	10月26日、京都大学吉田南1号館
参加者	溝上　慎一・山田　剛史（教育アセスメント室） 小川　交洋・辻　謙治・周娟（企画・情報部企画課IR推進室）
台湾大学訪問団	台湾評価協会会長、 各大学学長・副学長、 IRセンター長など約30名

台湾大学訪問団との意見交換が行われ、IR推進室からの「京都大学のIR推進に関する現状と課題」と題した報告や教育アセスメント室の体制や構想等を踏まえて意見交換を行いました。参加者からは積極的な質問がなされ、両国の大学風土やIRが導入された経緯、進める上での難しさなど様々な情報を共有し、懇親を深めました。

（山田 剛史）